

天理大ラグビー部



合宿所が開設、新戦力も加入。新しい環境で選手たちは、勝利に向かって強化に励む

(3日、天理大平等坊グラウンドで)

4月に入り、管内学校の各クラブは新入生を加えた態勢で始動。天理大ラグビー部もこの春に合宿所を開設、強化の拠点となる“家”を得て、新戦力とともに新しい環境で強化に励んでい

る。

合宿所は豊繁詰所に隣接して、「天理大学ラグビー寮」として開設。小松節夫監督は合宿所の良さについて、「ラグビーにかける時間が長くなり、また、選手同士が接する機会が増えるので

一体感も出て、チームワークも良くなる」と話す。

自らも寮長として同居。

生活面でのさまざまな手配や、管理などもしなければならない。しかし「することは増えるが、チームに与える効果への期待の方が大き

部から7人、第2部ラグビー部から1人が入部した。

小松監督は「管内高校ラグビー部の選手は、天理ラグビー」の基礎を共有している。チームの核になってほしい」と期待を表す。

Aリーグに復帰して2年

強化の“家”を得て

目のシ

きい」と。

新戦力については、昨年から実施されたスポーツ推薦を活用した新入生が入部。その中には昨季、全国高校ラグビーワールドカップで優勝した啓光学園高や、大阪工大高、伏見工高といった強豪校からの選手もいる。また、天理高第1部ラグビー

まったく春はオープン戦として10試合を予定。冬に培ったものを実戦で試し、夏の強化へつなげる。昨シーズンのAリーグでは、1勝もしていない。小松監督は「環境も変わったので今年がスタートだという新鮮な気持ち。1勝1勝を積み重ねたい」と話している。